第 40 回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード
議事要旨

１　日　時　：令和８年３月４日（水）14:00～16:00

２　場　所　：総務省　８階 第２特別会議室
千代田区霞が関２－１－２　中央合同庁舎第２号館

３　出席者　：（委員）
◎黒沢　文貴（東京女子大学名誉教授）
〇田家　　修（田家行政書士事務所　行政書士）
亀井　昭宏（早稲田大学名誉教授）
斎藤　靖二（公益財団法人日本博物館協会評議員）
名越　健郎（拓殖大学客員教授）
［敬称略、◎は座長、〇は座長代理］
（総務省）
佐藤　紀明　官房審議官
黛　　孝次　大臣官房総務課管理室長

４　議事次第
・令和７年度平和祈念展示資料館運営業務実施（見込み）報告について
・令和８年度平和祈念展示資料館運営業務計画（案）について

５　議事要旨
令和７年度平和祈念展示資料館運営業務実施報告書（見込み）を委託業者が報告、質疑応答が行われた。続いて、委託業者が令和８年度平和祈念展示資料館運営業務計画（案）について説明、質疑応答が行われ、最後に意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

〇　展示物をケースに入れないで展示することには否定的であり、また、できるだけレプリカが望ましいと昨年度も話をしたが、レプリカ率 85%というのはこの１年間で進捗したのか。
また、展示物がレプリカか実物かの表示はなされているか。来館者に誤解を与えぬよう複製か実物かはっきりさせなくてはいけないと思うが、そのことが盗難防止にもつながるのではないか。

〇　展示パネルやキャプション、書簡などの文字が小さくて読めない。展示の仕方に工夫があっても良いのではないか。

○　ドイツの科学博物館では、展示物の大半がケースに入っていない形で展示されており、一部のものは触れることもできる。やはり見るだけでなく、触れるということには、コミュニケーションの近さ、強さがあるので、検討していく必要があるのではないか。

　ただし、布や紙などの資料については、後世に伝えるという趣旨からすると、触れられるようにするのは決して望ましいことではないので、レプリカなどに置き換えて自由に触っていいとか、触ってその感触を確かめることができる等の方法を検討していただきたい。

○　アンケートにより、様々な世代の方が来館されていることを把握しているようだが、そのような方々へのフォローアップの方策は検討しているのか。

○　新聞・雑誌に広告を出稿しているが、各媒体の閲読率など、広告効果の指標を取っているか。

○　関連施設 13 館のネットワークについて、全国にこれだけ多くの関連施設があることを博物館関係者にもあまり知られておらず、このネットワークを更に広げていくことが重要だと考える。

　また、戦争関連の施設だけに限らず歴史系の総合的な博物館や町立の郷土資料館など関心を持っているところが結構ある。

　これは非常に面白い試みなので、ぜひ大事にしてこれを続けていただきたい。

○　インスタやＸは１日に２、３回発信されているが、その割に「いいね」とかフィードバックがちょっと弱い感じがする。

○　第１回企画展について、朝鮮からの帰還をテーマにしているが、はるかに苦労している「朝鮮半島北部」から帰還した人についても触れているのか。

○　展示物にどういういわれがあるのか説明があると、展示を観た人は「ああそうなんだ」と実感を持ち、ときには感動する。こうした来歴がわかるような展示を継続してやっていただきたい。

○　巡回展の地域の選定には何かルールがあるのか。それとも開催してほしいと意向打診があるところを優先的に選んでいるのか。

　開催地は県庁所在地に限定されているのか。開催された地域の周辺の市などで希望されるところがあれば、併せて展開することもあり得るのではない

か。

○　平和祈念展示資料館のリニューアルについて、難しい問題ではあるが、見せ方をどう整理するかというところは確かに分かりやすさにつながってくる。

ただ､分かりやすくするとどうしてもストーリーも単純化しやすくなってくるので､いわゆる右からも左からも意見が出やすくなってくると思われる。それについては、両方に配慮したやり方というのもないわけではないので、現状の展示を見直して、どういうふうに見せる、あるいは分かってもらえるようなものにするかというのを皆さんで議論するのは大いに結構だと思う。

○　資料館が保存している貴重な実物資料を昭和 100 年記念で展示してほしい。資料館は寄贈された資料を保管し、それを展示することが基本的な使命であるが、複製が多くなっている。普段の展示では仕方がないが、昭和 100 年記念の企画展があるのなら、この機会に 80 年前の実物、軍服やおむつで作ったワンピースなどを来歴とともに展示すると非常に良いのではないか、是非検討してもらいたい。

○　事業のコンセプトのお話しがあったが、令和８年度としてはこれまで実施してきたことを継続して行っていくということでよろしいか。その中で昭和 100 年という話があって、それを意識した企画、令和８年度はもう少しこの昭和 100 年を中心にした形を膨らませてもよいのでは。

（本議事要旨は、総務省大臣官房総務課管理室において作成した。
速報版であり、今後、修正する場合がある。）